

## 第三セクター等経営健全化方針

この方針は、相当程度の財政的なリスクが存在する第三セクター等と関係を有する地方公共団体が、当該第三セクター等の抜本的改革を含む経営健全化のための方針を定めるものである。

### 1 作成年月日及び作成担当部署

作成年月日 令和4年5月23日  
作成担当部署 京丹波町産業建設部農林振興課

### 2 第三セクター等の概要

法人名 瑞穂農林株式会社  
代表者名 代表取締役社長 新谷 一成  
所在地 京都府船井郡京丹波町保井谷三ツ枝38番地  
設立年月日 平成13年7月26日  
資本金 10,000千円【当該地方公共団体の出資額（出資割合）4,100千円（41%）】  
業務内容

- ・きのこ類の生産、加工及び販売
- ・きのこ類の生産に関する技術指導
- ・きのこ類の生産に関する技術指導及び技術検討の受託
- ・きのこ類の菌株維持、増殖、検定及び出荷の受託
- ・農産物及び農産加工品の生産並びに売買
- ・きのこ生産資材の製造及び売買
- ・肥料及び飼料の製造並びに販売

### 3 経営状況、財政的なリスクの現状及びこれまでの地方公共団体の関与

地方公共団体としての財政支援、監査、評価の実施状況

当該法人は、間伐材を活用した特用林産物（菌床茸）の振興を図り、間伐を促進することで森林の持つ多面的機能を十二分に発揮させ、地域の健全な発展を図るため設立し、地域資源の循環利用および地域活性化の核組織として重要な役割を担ってきた。

設立初期は雑菌による生産不安定に陥ったことや、市場の悪化等の影響を受け、赤字が累積することとなったが、平成25年度から高付加価値の大黒ホンシメジを生産し、他工場の閉鎖に伴う国内唯一の本しめじ栽培拠点となった結果、営業利益が単年度で黒字に転換した。

しかしながら、当時の繰越損失金が約7億円にまで累積し、社会経済情勢等の変化により一時的にでも更なる経営悪化が生じると事業の継続が困難を極めることが懸念され、健全な経営状況への転換には、赤字補填のための増資が不可欠であったため、株主による協議により債務補填が必要となった約7億円を増資している。（平成30年度）

近年は、施設の老朽化に加えてコロナ禍による原材料の品質低下や入手困難が発生し計画の生産を行えなかったこと、販売面では外食事業の縮小、各種イベント等の中止による販促機会が少なくなった影響により赤字が累積し、令和2年度決算では145百万円の債務超過となっている。

なお、本町理事者を役員に置き、当該法人と必要に応じて協議や連携を図った上で、評価および指導、要請を行っているところである。当該法人への京丹波町の出資額は410万円（41%）であるが、債務超過に陥っていることから出資に対する毀損リスクがあるが、本町が損失補償を付した債務及び短期貸付金はない。

#### 4 抜本的改革を含む経営健全化の取組に係る検討

経営健全化を達成し、持続可能な事業としての変革を遂げるためには、二種類の生茸の生産量および販売単価の改善と予防保全による設備修繕費の圧縮が不可欠である。

令和2年度の生茸年間生産量は、平成29年度対比（ピーク時）でハタケシメジ79%、ホンシメジ78%となっており、原材料品質の不安定や生産設備の老朽化により、年々生産量が減少傾向にある。親会社である雪国まいたけ株式会社と連携し、ピーク時の生産量へと改善すべく、原材料品質の改善と老朽化設備に対する予防保全を進める。

販売額については、ハタケシメジ、ホンシメジともに、主たる販売先である株式会社雪国まいたけが展開するブランド戦略により市場価格を引き上げ、瑞穂農林からの仕切り価格を増加させることで収益性の改善を検討する。

また、現工場はハタケシメジ生産施設の一部をホンシメジ生産施設に改装をしているため、それぞれの生産過程においてロスが生じている。抜本的改革として今後はハタケシメジ、ホンシメジそれぞれの生産施設に分けることも視野に入れ、生産量の増加、生産の効率化による収益性の改善を検討する。

#### 5 抜本的改革を含む経営健全化のための具体的な対応

今後の経営健全化のための対応として、ハタケシメジ生産については、自社製造のオガ品質改善及び代替米ぬかを導入し、収量を改善させるとともに、雪国まいたけ株式会社の育種技術を活用したハタケシメジの新たな高収量品種の開発を進める。ホンシメジについては、輸入原材料産地の気象条件等により品質不安定な状況にあるため、複数社購買に切り替えることによる極端な収量影響の緩和、また、代替原材料への切替を展開することで品質の不安定を改善させ、安定的生産による収量増加を図る。

販売単価については、現在、雪国まいたけ株式会社へ事業譲渡がなされ、販路が拡大したことにより、瑞穂農林からの販売単価（令和2年度実績）は平成29年度対比（収量ピーク時）でハタケシメジ105%、ホンシメジ117%と大きく改善されているところである。今後についても製品のブランディング戦略と、業務系販路の開拓により、更なる販売単価増加の実現に繋げる。

令和3年度実績では約70,000千円の収益性改善が見込まれている。上記対応により更なる収益性改善を図ることで年間経常利益30,000千円を確保し、今後5年間で債務超過解消に向けて進める。

また、既存の工場は稼働から20年を経過し、今後約10年の間には大掛かりな設備のリプレイスが必要と予測する。当面は必要最低限の設備修繕にとどめ、収量と販売単価の改善が図られたのち、更なる生産性の向上と生産量の拡大を図るための新たな施策を展開したい。

(参考) 6 法人の財務状況

項目	金額(千円)		
	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
資産総額	1,220,998	454,710	628,938
(うち現預金)	(115,559)	(100,224)	(281,665)
(うち売掛金)	(138,226)	(107,580)	(99,153)
(うち棚卸資産)	(106,481)	(128,801)	(93,511)
負債総額	409,045	517,315	774,448
(うち当該地方公共 団体からの借入金)	( 0)	( 0)	( 0)
純資産額	811,952	△62,605	△145,510

貸借対照表から

項目	金額(千円)		
	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
経常収益	324,173	249,922	65,640
経常費用	378,066	374,447	138,927
経常外収益	1,390	858	1,176
経常外費用	7,061	5,354	4,572
経常損益	△59,563	△129,021	△76,683
特別利益・特別 損失・法人税等	846,244	△745,536	△6,221
当期純損益	786,680	△874,558	△82,905

損益計算書から